

ヨコハマトリエンナーレ 2020 について

本市及び横浜トリエンナーレ組織委員会では、新型コロナウイルス感染症の状況を慎重に見極めながら、開催に向けた準備を進めてきました。

政府は、緊急事態宣言解除後、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」において、美術館、博物館などについて「感染防止策を講じることを前提に開放すること」としています。こうした方針を踏まえ、徹底した感染予防を行ったうえでヨコハマトリエンナーレ 2020 を開催することとしました。

1 開催にあたっての主な変更点

(1) 開幕日の変更

当初は7月3日（金）からの開幕を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症への十分な安全対策を講じるため、開幕を2週間延期して2020年7月17日（金）から10月11日（日）までの会期といたします。

(2) 日時指定の予約制チケットの導入

いわゆる「3密」回避のため、会場内の人数を一定以下に保つことを目的として、チケットは日時指定の予約制とします。

一般	大学生・専門学校生	高校生	中学生以下
2,000 円	1,200 円	800 円	無料

【概要】

タイトル：ヨコハマトリエンナーレ 2020

「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」

会 期：令和2年7月17日（金）～10月11日（日）
（開催日数 78 日間）

※休場日：木曜日（7/23、8/13、10/8 を除く）

会 場：横浜美術館、プロット 48

チケット：日時指定の予約制

参加作家：65 組



2 主な新型コロナウイルス感染予防策

(公財) 日本博物館協会のガイドライン等に沿って十分な安全対策を講じます。

- ＜主な取組＞
- ・日時指定予約チケットの導入による入場制限（140人/1時間を予定）
 - ・来場者のマスク着用、入場時の検温、手洗い・消毒の徹底
 - ・会場内の消毒、換気、対人距離の確保
 - ・スタッフのマスク着用や検温の徹底

3 今回展の特徴

(1) タイトル「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」

「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」と題し、目まぐるしく変化する世界の中で、大切な光を自ら発見してつかみ取る力と、他者を排除することなく、共生のための道を探るすべについて一緒に考えます。

(2) 初の外国人ディレクター

インドのニューデリーを拠点に、世界で活躍するアーティスト集団「ラクス・メディア・コレクティヴ」を横浜トリエンナーレ史上初めての外国人アーティストティック・ディレクターとして迎えました。



(3) 展覧会と「エピソード」の2部構成

展覧会に加え、「エピソード」と称するパフォーマンスや講演会等を開催し、ラクス・メディア・コレクティヴの思考のプロセスを公開、共有していきます。

(4) 参加作家の多様性

ア 若さ、新鮮さ

1980年代、90年代生まれが35名。20代、30代が52%

イ 参加地域の多様さ

アジア31組、ヨーロッパ14組、中東8組、アフリカ4組、大洋州4組、北南米3組 *1組は未公表

4 その他の取組

(1) 夏の暑さ対策

横浜美術館からプロット48の会場間移動の際にご利用いただける、オリジナルの日傘を無料で貸し出すほか、プロット48入口周辺にミスト装置を設置します。



(2) 連携プログラム

9月11日（金）より BankART1929 及び黄金町エリアマネジメントセンターが開催する展覧会をトリエンナーレと併せて鑑賞できる「アート巡りチケット」を販売し、創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。

〈参考〉 開催概要

- (1) タイトル：ヨコハマトリエンナーレ 2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」
- (2) 会 期：令和2年7月17日 [金]～10月11日 [日] <内覧会>令和2年7月16日 [木]
- (3) 休 場 日：木曜日（7/23、8/13、10/8を除く）
- (4) 開場日数：78日
- (5) 開場時間：10:00～18:00 ※入場は開場の30分前まで
※10/2（金）、3（土）、10/8（木）、9（金）、10（土）は21:00まで
10/11（日）は20:00まで
- (6) 会 場：横浜美術館、プロット48 ※日本郵船歴史博物館に本展作家1名による展示あり
- (7) 主 催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、
横浜トリエンナーレ組織委員会
- (8) 支 援：文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）
- (9) 特別協力：独立行政法人国際交流基金、独立行政法人都市再生機構
- (10) 後 援：神奈川県、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）
- (11) 協 賛：日産自動車株式会社、三井不動産グループ、三菱地所グループ
株式会社 JVC ケンウッド、スターツグループ、大日本印刷株式会社
株式会社高島屋 横浜店、森ビル株式会社、株式会社横浜銀行
上野トランステック株式会社、NTT東日本、株式会社大林組、川本工業株式会社
株式会社キタムラ、株式会社崎陽軒、株式会社サカタのタネ、東レ株式会社、
NEC、ニューマン横浜、原鉄道模型博物館、横浜信用金庫
- (12) 協 力：株式会社 ACM、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、第一織物株式会社
日本郵船歴史博物館、Peatix Japan 株式会社、富士ゼロックス株式会社
株式会社横浜都市みらい
- (13) 助 成：財団法人国家文化芸術基金会、公益財団法人大林財団
公益財団法人吉野石膏美術振興財団、IFA、
在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、スペイン大使館
オーストリア文化フォーラム
- (14) 認 証：beyond2020 プログラム



オンラインチケットで、 ヨコハマトリエンナーレ2020へ!

チケットは、日時指定の予約制です。
オンラインでチケットをご購入の上、ご来場ください。

一般	大学生・専門学校生	高校生	中学生以下
2,000円	1,200円	800円	無料 (事前予約不要)

ヨコトリ2020チケットで〈横浜美術館〉〈プロット48〉〈日本郵船歴史博物館〉に入場できます

- ※横浜美術館への入場は日時指定が必要です。
- プロット48は、【横浜美術館と同日に限り】お好きな時間にご入場いただけます(ただし入場は閉場の30分前まで)
- ※オンラインチケットに空きがある場合は、横浜美術館、プロット48のチケット販売窓口でも購入できます。(開場日のみ・閉場30分前まで)
- ※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料です。(事前予約不要)
- ※新型コロナウイルス感染症対策のため、開場日や開場時間等に変更が生じる可能性があります。
- ご来場前に必ず公式WEBサイトまたは電話で、最新の情報をご確認ください。

2020 ヨコハマ トリエンナーレ AFTERGLOW 光の破片をつかまえる

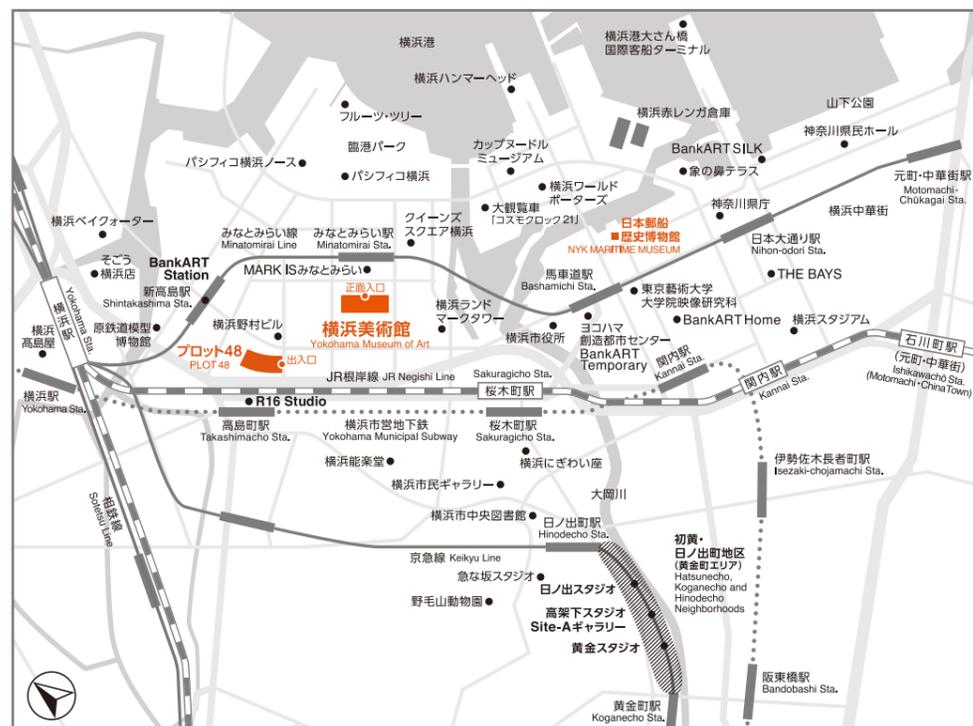


2020 ヨコハマ トリエンナーレ YOKOHAMA TRIENNALE

2020 7.17 (Fri) – 10.11 (Sun)

横浜美術館、プロット48
Yokohama Museum of Art, PLOT 48

光の破片をつかまえる
AFTERGLOW



アクセス

横浜美術館

横浜市西区みなとみらい3-4-1

みなとみらい線(東急東横線直通)
みなとみらい駅(3番出口)からマークイズ
みなとみらい(グランドガレリア)経由
徒歩3分

JR(京浜東北・根岸線)・横浜市営地下鉄
(ブルーライン)桜木町駅から(動く歩道)
を利用、徒歩10分

プロット48

横浜市西区みなとみらい4-3-1

みなとみらい線(東急東横線直通)
新高島駅(2番出口)から徒歩7分

横浜市営地下鉄(ブルーライン)
高島町駅(2番出口)から徒歩7分

日本郵船歴史博物館

横浜市中区海岸通3-9

出品作家マリアンヌ・ファーミの作品が展示されています。チケット提示で横浜美術館の日時指定にかかわらずお好きな日時に入館いただけます。開館日・時間は、横浜美術館、プロット48とは異なります。同博物館WEBサイト(<https://museum.nyk.com/>)をご覧ください。

[アクセス] みなとみらい線(東急東横線直通)馬車道駅(6番出口)から徒歩2分
JR(京浜東北・根岸線)関内駅(北口)から徒歩8分または桜木町駅から徒歩12分

ヨコハマトリエンナーレ2020 「AFTERGLOW – 光の破片をつかまえる」

アーティストック・ディレクター: ラクス・メディア・コレクティブ(Raqs Media Collective)

会場: 横浜美術館、プロット48

会期: 2020年7月17日(金)~10月11日(日)

休場日: 木曜日(7/23、8/13、10/8を除く)

開場時間: 10:00~18:00

※10/2(金)、10/3(土)、10/8(木)、10/9(金)、10/10(土)は21:00まで開場

※会期最終日[10/11(日)]は20:00まで開場

[主催] 横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社
横浜トリエンナーレ組織委員会

[支援] 文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)

[特別協力] 独立行政法人国際交流基金、独立行政法人都市再生機構

[後援] 神奈川県、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)

[助成] 財団法人国家文化芸術基金、公益財団法人大林財団、公益財団法人吉野石膏美術振興財団
IFA、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、スペイン大使館、オーストリア文化フォーラム

[アーティスト支援] オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツ、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

[協賛] 日産自動車株式会社、株式会社野村総合研究所、三井不動産グループ、三菱地所グループ
株式会社JVCケンウッド、スターツグループ、大日本印刷株式会社、株式会社高島屋 横浜店
森ビル株式会社、株式会社横浜銀行、上野トランステック株式会社、NTT東日本、株式会社大林組
川本工業株式会社、株式会社キタムラ、株式会社崎陽軒、株式会社サカタのタネ、東レ株式会社
NEC、原鉄道模型博物館、横浜信用金庫、株式会社ルミネ ニュウマン横浜店

[協力] 株式会社ACM、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、第一織物株式会社、日本郵船歴史博物館
Peatix Japan株式会社、富士ゼロックス株式会社、横浜高速鉄道株式会社、株式会社横浜都市みらい



www.yokohamatriennale.jp

[お問い合わせ] ハローダイヤル: 050-5541-8600 (8:00-22:00)

いま最も刺激あふれる現代アートは、横浜から世界へ

Catching the Fragments of Light in the “Afterglow”

ヨコハマトリエンナーレは、3年に一度開催される現代アートの国際展です。ヨコハマトリエンナーレ2020では、「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」と題し、目まぐるしく変化する世界の中で、大切な光を自ら発見してつかみ取るかと、他者を排除することなく、共生のための道を探るすべについて、みなさんと一緒に考えます。本展を企画するのは、長年にわたって世界で活躍するインドの3人組アーティスト集団「ラクス・メディア・コレクティヴ」です。日本で初めて作品を発表するアーティストはもちろん、本展のために新たに制作される作品やプロジェクトを多数紹介し、いま、最も刺激に満ちた現代アートをお楽しみいただけます。

Yokohama Triennale 2020 “Afterglow” will present artworks and projects in ways that will encourage individuals to pursue their own curiosities, illumine life in their own ways, and participate in a world that co-exists with toxicity. This edition is directed by Raqs Media Collective, a collective of three artists based in India. It will include artists who are presenting in Japan for the first time as well as new commissions and deliver the most exciting contemporary art to the world from Yokohama.

展覧会出品作家 / Exhibiting Artists (2020年7月現在)

- ハイグ・アイヴァジアン Haig AIVAZIAN
- ファラー・アル・カシミ Farah AL QASIMI
- モレシム・アラヤリ Morehshin ALLAHYARI
- ロバート・アンドリュウ Robert ANDREW
- 青野文昭 AONO Fumiaki
- 新井卓 ARAI Takashi
- コラクリット・アルナーノンチャイ Korakrit ARUNANONDCHAI
- ローザ・バルバ Rosa BARBA
- タイスィール・バトニジ Taysir BATNIJI
- イシャム・ベラダ Hicham BERRADA
- ニック・ケイヴ Nick CAVE
- チェン・ズ(陳哲) CHEN Zhe
- ジェシー・ダーリング Jesse DARLING
- マックス・デ・エステバン Max DE ESTEBAN
- エヴァ・ファブレガス Eva FABREGAS
- マリアヌヌ・ファーミ Marianne FAHMY
- アリア・ファリド Alia FARID
- ファームング・アーキテクト Farming Architects
- イヴァナ・フランケ Ivana FRANKE
- ラヒマ・ガンボ Rahima GAMBO
- ズザ・ゴリンスカ Zuza GOLINSKA
- アンドレアス・グライナー Andreas GREINER
- インティ・ゲレロ Inti GUERRERO
- ニルバー・ギュレシ Nilbar GÜREŞ
- ティナ・ハヴロック・ステイヴンス Tina HAVELOCK STEVENS
- ジョイス・ホー(何采采) Joyce HO
- インゲラ・イルマン Ingela IHRMAN
- 飯川雄大 IIKAWA Takehiro
- 飯山由貴 IIYAMA Yuki
- 岩井 優 IWAI Masaru
- 岩間朝子 IWAMA Asako
- 金氏徹平 KANEUJI Teppei
- 川久保ジョイ KAWAKUBO Yoi
- レボハンク・ハンイエ Lebohang KGANYE
- キム・ユンチョル KIM Yunchul
- エレナ・ノックス Elena KNOX
- ラウ・ワイ(劉衛) LAU Wai
- ラス・リグタス Russ LIGTAS
- メイク・オア・ブレイク(レベッカ・ギャロ&コニー・アンテス) Make or Break (Rebecca GALLO & Connie ANTHERS)
- タウス・マハチェヴァ Taus MAKHACHEVA
- ナイーム・モハイエム Naeem MOHAIEEM
- ジェイムス・ナスミス James NASMYTH
- パク・チャンキョン PARK Chan-kyong
- アモル・K・パティル Amol K. PATIL
- アリユアーイ・プリダン(武玉玲) Aluay PULIDAN
- レーヌカ・ラジーヴ Renuka RAJIV
- オスカー・サンティラン Oscar SANTILLAN
- サルカー・プロティック SARKER Protick
- 佐藤雅晴 SATO Masaharu
- さとुरりさ SATO Risa
- レヌ・サヴァント Renu SAVANT
- ツェリン・シェルパ Tsherin SHERPA
- エリアス・シメ Elias SIME
- レイヤン・タベット Rayyane TABET
- 竹村 京 TAKEMURA Kei
- デニス・タン(陳文偉) Dennis TAN
- アントン・ヴィドクル Anton VIDOKLE
- オメル・ワシム&サーイラ・シェイク Omer WASIM & Saira SHEIKH
- ランティアン・シェイ Lantian XIE
- ジャン・シュウ・ジャン(張徐展) ZHANG XU Zhan
- ジェン・ポー(鄭波) ZHENG Bo



レボハンク・ハンイエ Lebohang KGANYE
 《ケ・サレ・テン(今もここにいる)》(スタイル)
 Ke Sale Teng (I am still here), 2017
 ©LEBOHANG KGANYE, Courtesy of AFRONOVA GALLERY



ニック・ケイヴ Nick CAVE
 《回転する森》Kinetic Spinner Forest, 2016
 ©Nick Cave, Photo by James Prinz,
 Courtesy of the artist and Jack Shainman Gallery



ニルバー・ギュレシ Nilbar GÜREŞ
 《鞍馬》「知られざるスポーツ」より(部分) Pommel Horse, from the series “Unknown Sports” (detail), 2009
 ©Nilbar Güreş, Courtesy of Galerist



エヴァ・ファブレガス Eva FABREGAS
 《ポンピング》Pumping, 2019



イシャム・ベラダ Hicham BERRADA
 《Présage(予兆)》(スタイル) Présage (still), 2007~
 ©ADAGP Hicham Berrada. Courtesy the artist and kamel mennour, Paris/London,
 Photo by Hicham Berrada

アントン・ヴィドクル Anton VIDOKLE
 《宇宙市民》(スタイル) Citizens of the Cosmos (still), 2019
 Courtesy of the artist, Asakusa and Vitamin Creative Space



さとुरりさ SATO Risa
 《本日も、からっぽのわたし #1》I who am empty again today #1, 2019
 ©Risa Sato, Courtesy of ZOU-NO-HANA TERRACE, Photo by 427FOTO

展覧会のほかに実施される「エピソード」の参加作家やその詳細については、ヨコハマトリエンナーレ2020の公式WEBサイトで最新情報をご覧ください。Please go to our website for the latest information on the series “Episodó” to find out about its participating artists and the details of the events.